

2022 年秋学期語学留学/クライストチャーチ工科大学 帰国生アンケート

※注意※ ここで紹介されているアンケート回答は**全て個人の主観によるもの**であり、あくまで『参考情報』としてみなさんに開示しています。**正しい情報とは限りません**ので、その点について了承した上で留学準備に活用してください。

1. 授業について

授業の形態や進め方はどんなものでしたか。

教科書に沿って進めていた。主にスピーキング

ペアワークやグループワークが多い。スピーキング練習はもちろん、文法やリーディングも各自で解いた後にペアやグループで答えを確認しその後クラス全体で答えを確認するというような授業形態でした。

9時から12時までの授業で、途中で約15分の休憩がありました。授業の初めには軽いアクティビティやミニゲームを行い、その後に授業に入っていました。授業では基本的に教科書に沿って行い、文法、リスニング、リーディング、スピーキングの授業を行いました。2-3週間に一回テストがあり、文法やポキャブラリーの記号選択問題やリーディング、リスニングの記号選択、ライティングのテストもありました。

教科書の内容に沿った内容で、たまにリスニングが弱い私たちのためにリスニング問題を多く出題してくれていました。授業形態は会話をほぼ毎回行ってスピーキングを高めていました。

授業形態は授業が始まる前にミニクイズやミニゲームをして寝ている頭を起こします。教科書に沿って Reading、Speaking と Listening を一授業ごとに単元進みます。Reading と Writing と Speaking のテストも受けました。授業の進み具合は自分は丁度良いと思いました。

教科書で文法を学んだあと、ライティングやスピーキングで練習していた。

クラス人数、日本人と留学生比率、留学生の出身国などについて教えてください。

日本人のみ。最後の1ヶ月だけスペイン人の女性1人きた。

11人クラスで、最初の2ヶ月は日本人のみで途中からイタリアからワーキングホリデーできた学生がクラスにきた。同じ階には違う国が化の留学生やニュージーランドに住み始めたブラジル人、中国人、韓国人、ベトナム人などのクラスがあった。

12人のクラスで、1人だけ日本人以外の学生がいたもののそれ以外は全員日本人のクラスでした。日本人は外大の学生と、広島大学から来た学生がいました。

最後の2週間で、コロンビアからの留学生が一人参加し、一緒に授業を受けていました。それまでは全員日本人学生でした。

クラスの雰囲気はどんなものでしたか。

ミーティング室のような席の形で、先生と学生がずっと話しているような形でした。

アットホームな雰囲気全員が発言しやすい雰囲気だった。

発言もしやすく和やかな雰囲気でした。広島修道大学の学生と合同で行っていましたが、とても穏やかな子達でとても進めやすいと感じていました。

Conversation を大事にしていたのでそのお陰でクラスの絆が深まり、クラスの雰囲気はとても良く集中するときは集中し遊ぶときは遊ぶというような切り替えがしっかりできていました。日本の授業と違う点は授業中にお菓子を食べてもいいということです。糖分補給をして授業に臨めるので集中することが出来ました。

積極的に発言しやすい。席はグループごとに向かい合わせで座っていたため、間違いをお互いに指摘し合い、できるだけ英語で話すような環境だった。

討論や他の人の意見を聞く機会が日本に比べて多かったです。

向上心があり集中して授業に取り組める環境

発言しやすい雰囲気、手をあげて解答すると言うよりかは、各々積極的に発言していく雰囲気でした。また、問題の答え合わせなどは先生が順番に学生を当てていくスタイルでした。

学生の声に耳を傾けているなど感じた。発言しやすい空気があった。

初回に比べて、授業中に発言をする人が増えました。また私たちの集中力が切れないよう、先生方もゲーム感覚の授業をしてくれたりするなど楽しく受講することができました。

私たちのクラスの雰囲気はとても良かったと思います。最初は日本人しかいないことに戸惑いましたが、授業中にたくさん発言したり、スピーキング練習やアクティビティの際には大学の枠を超えて助け合うことができました。日本の授業とは違った点は、先生とのコミュニケーションが圧倒的に取りやすかったことだと思います。

授業の中で取り上げられたトピックで印象に残っているものは何ですか。

カヤックひとつでアマゾン川を横断した女性の話。

ダンプスター・ダイビング(フードロス削減のためのゴミ漁りについて)

教科書の中に出てくるロブとジェニーのラブストーリーの動画を見るのが楽しかったです。何回かに分けて短めの動画を見ましたがクラスのみならず、授業外でも楽しんでいます。

最初から最後の授業にわたって見た恋愛ドラマ。

映画のトピックスです。私は映画鑑賞が趣味なのですが今まで英語で説明することが出来なかったのが英語で映画の良さを説明する事が出来るようになったのでとても印象に残っています。

未来形、過去分詞の使い方アメリカ英語とイギリス英語の時制の感覚の違いに驚いた。

友達の恋人からデートに誘われた時あなたは友達に彼女がデート誘ってきたことを正直に伝えるかそれとも黙っておくかという討論で丁度半々ぐらいに分かれ正直に伝える人は真の友達であるという意見や逆に正直に伝えてその2人の関係を壊すのは罪悪感があると答える人もいてとても面白いトピックで印象に残っています。

海外と日本との学校生活や家の違い

人間関係のトピック「友達」と言うだけでも関係性によって単語が変わったり、家族関係でも様々な言い方があり、興味深かった。

「仕事」に関してのトピックです。Araの先生やクラスメイト、同じフロアで英語を学びながら仕事をしているAraの学生さんとも話すことができ、自分の中で「仕事」に関する考え方が変わりました。

授業を受けるにあたって工夫していたこと、努力していたことはなんですか。

周りの人達より英語のレベルが低かったので予習をしました。

とにかく英語を使うことに気をつけました。周りがほとんど日本人だったため授業中にも日本語が飛び交うことがありましたが、その中でも英語を使ってコミュニケーションをとるようにしていました。また、わからない単語が出てきた時にはすぐに調べて意味を理解したり、あたらしい表現が出てきた時にメモをして後で見返せるようにしていました。

毎週ホストファミリーに授業内容について質問できる環境を設けてもらっていたので、授業でわからなかった問題を教えてもらっていました。そこで、授業内容の復習を出来るだけ毎週、余裕のある週は2回お願いして勉強していました。

積極的な発言

間違えているかもと心配せずに授業中に発言することやSpeakingではペアの子が日本語で話しかけてきても日本語をなるべく使わないようにしました(相手が理解出来ない場合を除く)。疑問に思った瞬間先生に質問し授業終わりには先生とコミュニケーションを取るようになっていました。

自分で例文を作り、本当に理解できたか確認するようにしていた。単語の意味はできるだけ英語で調べて、ネイティブの感覚に近づけるようにしていた。

バスが日本みたいに時間通りに来ないことが多いので時間には気をつけ、なるべく遅刻しないように早めに家を出ていました。

習ったことはすぐにアウトプットすること
集中して取り組み、発言するタイミングでは積極的に発言する。間違っているか合っているかより、発言することを意識的に努力した。
わからないことは先生にすぐ聞くように心がけた。
担当の先生方とのコミュニケーションや質問に対するリアクションを大切にしていました。また、もし英語でいい表現が見つからなくて、しどろもどろになっても話すことを諦めないよう努力しました。

2. 滞在先・自由時間の過ごし方について

ルームメイトはいましたか。	ルームメイトはどこの人でしたか。	通学手段	通学時間
0人		バス	45-60分
0人		バス	30-45分
5人以上	ホストファミリーがワッフイニングという制度をつかっていたため、約1週間間隔で人が入れ替わっていました。ドイツ、ブラジル、フランス、ニュージーランド、オーストラリアの出身の人に会いました。	バス	30-45分
0人		バス	15-30分
0人		バス	30-45分
2人	ニュージーランド	バス	30-45分
0人		バス	15-30分
0人		徒歩	15-30分

部屋に用意してあったものは何ですか。	自分で用意したものは何ですか。
クローゼット、タンス、ベッド、机椅子	ヘアアイロン、ハンガー 充電器 変圧器
ベッド、クローゼット、タンス、勉強机、本棚、ゴミ箱	
2段ベッド、布団、枕、ブランケット、電気毛布、シーツ類、タオル、クローゼット、ハンガー、洗い物を入れるバスケット、折りたたみ式机、椅子、ベッドサイドランプ	
ベッド、勉強机、椅子、タンス、ハンガー、収納、ヒーター、ぬいぐるみ、ドライヤー、アウター	服、化粧品、シャンプーなど、スリッパ、洗剤<必要なかった>
シングルベッド、ソファ、クローゼット、タンス、机、イス	その他全て
ベッドと勉強用の机とクローゼットがあり、ヒーターはありませんでした。	スリッパとバスタオル
ベッド、クローゼット、鏡、机	ティッシュ、スリッパ
勉強机・クローゼット・ランプ・棚・ハンガー・バスタオル	洗面用具・バスタオル・爪切り・綿棒
ドライヤー、ハンガー、ティッシュ、ゴミ箱	ヘアアイロン、ファブリーズ
ベッド、机、椅子、鏡、サイドテーブル、一人用ソファ、クローゼット、バスタオル、ハンガー	ドライヤー、スリッパ、生活用品
ベッド、机、テレビ、お風呂、トイレ	身の回り品
ベッド、勉強机、デスクランプ、本棚、十分なサイズのクローゼット、タンス、ハンガー、NZで人気のお菓子がたくさん、コカ・コーラ、さまざまな大	タオル、ドライヤー、生理用品、スキンケア用品、マスク、除菌シート、常備薬(EVEや生理用)、サングラス、薄手のコート、歯磨き系、コンタクト、へ

<p>きさのタオル、予備の毛布、ドライヤー、生理用品、消毒用のアルコール類、マスク、筆記用具</p>	<p>アケア用品、夏・秋用の洋服、折り紙、スニーカー、運動靴、どうなってもいい靴、どうなってもいい洋服、夏・秋用の洋服、おしゃれ用のサンダル、ワンピース1枚、オシャレのバッグ、エコバッグ折りたたみ傘、日焼け止め、ルームシューズ、ハンカチ、お土産(地元のお菓子、シーサー、紅葉の切り絵)、リュックサック、トートバッグ、水着、化粧品、PC、電子辞書</p>
--	--

ホームステイ生活をする上で、日本と違って戸感ったこと、驚いたこと。

土足生活、お風呂5分。

シャワーの時間が10分と決まっていたこと。

初めは土足をしていいのかダメなのかを迷いました。だんだん土足をすることや靴で入った家の中を裸足で歩き回ることに抵抗がなくなりました。庭にいくつか小屋があり、親戚やお客さんが使っており家の中に誰が住んでいるか分からなかったです。

就寝時間が早いこと。お風呂の時間がきびしいこと。

シャワーのみ、お湯に限りがある

虫がシャワールームで死んでいたことと窓に網戸が無いのでハチが部屋に入ってきたこと。食事面では野菜をあまり食べず、味付けが濃いこと。

温かいシャワーがでてくるのに時間がかかり、寒かった。

窓を開けていたら絶対に蜘蛛や日本と違い大きめの虫が入ってくるので換気するのが困難でした。

土足生活と親戚が週1できて大人数でご飯を食べること

食べるスピードが早い。ホームステイだったので食事の家族の会話のスピード、世間話のような日常会話についていくのが難しかった。

夜寝るのが早い

お米など、普段スプーンを使用するご飯を食べる際に必ずフォークで食べることです。

部屋や家の掃除を自分でやって怒られてしまったこと。NZのいくつかの家庭は、他の家庭を支えるために、家の掃除や洗濯をメイドさんにやってもらったりしている。ご飯のバリエーションがとても少ない。お風呂の時間が10分以内。

ホームステイを快適に過ごすためのアドバイスをお願いします。

自分の意見、要望をしっかりとホストファミリーに伝える。日本人は遠慮しがちで迷惑かもしれないと本音を隠しがちだが、ホストファミリーは学生の本音が聞きたいと思っているし学生自身も意見や要望をきちんと言えないとしんどくなる。

お風呂はとても短いです。ダニに最初みんなやられていました。私はベッドの下に入れるダニ取りシート入れていたので大丈夫でした。ニュージーランドは寒い国なので、暖かい格好を用意してください。夏でも通学時間は気温は一桁です。

家事は大体してもらえますが、洗濯やシーツの交換を自分でやるお家もあるので全ての家事を自分でやるくらいの気持ちでいた方が楽です。好きに使っていいと言われた場所ではあまり気にせずにくつろいだ方が精神的につらくならないですし、ホストファミリーとの会話もできるのでリビングで気を使わずに過ごすことをおすすめします！

最初から自分らしく、出来るだけ好印象を与えながらホームステイ先の方と挨拶して、日々コミュニケーションを図るようにすべきだと思います。行きたい場所を聞かれることが多いので、あらかじめ調べて決めておくのと連れて行ってくれる可能性が高いです。特に最初の方が連れて行ってくれやすいと思うので、留学前の準備、下調べしておくべきだと考えます。自分のルーティーンなど崩れてしまう可能性が高いので、ステイ先の方の要望も聞き入れると同時に守ってほしいことが有れば先に伝えておかないと後々の生活に影響が出てきます。

ファブリーズなどの除菌消臭スプレー

自分の時間を作ることが大事です。なぜなら、ホストファミリーと話すことも大事ですが、ストレスがたまることもあるからです。

食生活に合わせていくのが大変だと思うため、ホストファミリーの夕飯作りを手伝うのがおすすめ。会話を広げるために嫌いな食べ物や、好きな食べものを伝えやすい。また、今日の出来事や、何気ない会話ができて、関係を深める時間にもなった。

1週間に1回や多くて2回ぐらいしか洗濯してくれないので下着は多めに持って行くことや天気予報が当たる可能性の方が少ないので常に折りたたみ傘を常備しておく必要があります。

お手伝いをたくさんすること。手伝いをするによって物の位置がわかって住みやすくなる

初めから、本当の家族のように接すると思います。3ヶ月という長い間を毎日過ごすので、浅い会話だけだとコミュニケーション不足になってしまうので、友達関係や悩みなどもたくさん話した方が良い関係が築けます。初日から緊張しすぎず、コミュニケーションを取る機会の多い日常ルーティーンを確立しておくことが大切だと思います。(例えば食後はリビングで過ごす。など)

要求は全て伝える。察して欲しいとかは諦めるべき。

事前に家のルールを聞いておくことだと思います。私は聞いていたのでステイ先で特に困ったことはなかったし、想像していたよりステイ先の規則が少なく日本にいる時と同じように快適に過ごすことができました。また、ホストファミリーとの交流も深めておくことでより快適に過ごせたと実感しております。

ホストファミリーとできるだけたくさんコミュニケーションをとること。私は夕食や夕食後はできるだけホストファミリーと一緒に過ごすようにしていました。また、お出かけに誘われたら断らずに必ずついて行って、ホストファミリーの友達や親せきともたくさん話すようにしていました。

パソコンは持参しましたか。	携帯電話	インターネットは部屋から接続可能でしたか。	その際に費用はかかりましたか。
はい	日本の携帯をそのまま持参	LAN ケーブル/ワイヤレス共に可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	不明	
はい	日本の携帯をそのまま持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本の携帯をそのまま持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	留学先で SIM カードを購入	ワイヤレスで可能	いいえ
いいえ	日本から SIM カードを持参		いいえ
はい	留学先で SIM カードを購入	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	留学先で SIM カードを購入	ワイヤレスで可能	いいえ

大学主催のプログラム/イベント/ボランティア /サークルなど。	学内/学校近辺でよく利用した施設やお店など
ランゲージエクステンジに参加して、色々な国の人とコミュニケーションをとったり教会に行ったりしていました。	
学校の日本語クラブへの参加、映画鑑賞	ジム、図書館、映画館。
現地の大学で日本語を学んでいる学生と一緒に話をしたり、日本とニュージーランドのゲームや文化体験をする language Exchange というものがあつたのでよく参加していました。	学内ではほぼ毎日カフェテリアでランチを食べていました。放課後にはシティにあるカフェを巡ったり、バスで少し言ったところにあるショッピングモールによく行ってました。
放課後、学校で運営されている英会話クラスに参加していました。主に学校に在籍する海外の日本に興味のある方を中心に会話をしていました。学校外の英語を学べるクラブのような集まりがあり、そちらにも参加していました。仲良くなった方とはおうちに遊びに行くこともあり、楽しく過ごしていました。	学校の近くに商業施設が沢山あるシティがあつたので、友人とよく買い物をしたり、カフェで話していました。
市内のイベントへの参加	リバーサイドマーケット。いろんなレストランが集まった施設。学内ジム

大学にある言語交換会に参加し現地の友達を作った後にその友達に教えてもらった教会の交流会に参加し交流の場を広げました。現地の友達に遊びに誘われたとき必ず遊びに行っていました。	市内にあるカフェに授業終わりに行ったり、授業開始前にコーヒーをテイクアウェイしたり、シティに周辺に色々な店があるので満喫できます。
木を植えるボランティアを週末におこなった。朝8時に集合して4時まで全員で1100本植えた	日本食屋、スーパー
	学校内のジムに放課後通ったり、近くの街に出てカフェや買い物をしました。夜ご飯はホームステイ先で食べるので学校が終わって3時から5時30分の間は自由に過ごしていました。

3. 留学前準備について

留学前に取り組んだ準備
日常会話でよく使う表現やスラング、その国でのタブーなど情報をあつめた。
ホームステイで使える文を調べること。
YouTubeでの英会話勉強、スラングの意味調べ、大体の生活感の情報を在住の方のYouTubeなどから聞いておく。ホームシックにならないよう一人の時間を増やしたり家から離れる経験を体験しておく。
ニュージーランドはどんな国か、学校の近くには何があるか、行きたいところは何処か、などをグーグルやインスタグラムを使ってたくさん調べました。単語の勉強はしていて良かったと思いました。単語が分かるだけで、全ての文が聞き取れなくても何とか話についていけます。
文法の基礎を全て押さえる。便利フレーズなどを覚えておく。
自分が知っている単語ではなく、日本語と同じ早さで使える英単語をもっと増やしておくべきだった。相手が言っていることを理解はできるが、自分から発するとなると、いつも同じような単語ばかりを使ってしまい会話の中で伝えたいことのニュアンスの違いを伝えられなくてとても悔しかった。

留学前にしておけばよかったと思う準備
日本社会や政治について学校やホームステイで聞かれる場面が多かったが、知識があまりなく答えられない場面が多かったので日本のことについて情報収集しておけば良かったと思った。
留学先の気候を調べておけば良かったと思いました。ニュージーランドはなつだと聞いていたので半袖ばかりを持って行きましたが、実際は雪が降ることもあるくらいには寒かったので気候は絶対に調べていった方が良いです。あとは、観光地についても調べていった方が良いです。行きたいところをピックアップしてから留学に行くと、休日に何もやることがないという状況を防げます。
文法の勉強をもっとしておくべきだともおもいました。クラス分けの際、クラスごとの差を大きく感じたので。
現地の気候を調べることです。なぜなら、ヒートテックを一枚も持って行かず更には長袖もあまり持って行かなかったため風邪をひいてしまったからです。
文法の勉強、スピーキング、日本の政治、文化
ホストマザーを話す時知らない単語が多々ありその度に携帯を出して調べていたのもっと日常会話を勉強していたらよかったと後悔しました。
単語をもっと覚えていけばよかった
Facebookのアカウントを作っておく。イベント情報などの記載はFacebookが主流だったので情報をより効率的に得るためにFacebookは必要と感じた。
日常生活については知っておくべきだと思いました。例えば、バスの待ち方です。バスが来た際に手を挙げて合図をしないと待っていてもバス停に止まらないことがあったので、些細な事でも事前に知っておくべきだと思いました。私の最寄りのバスは手を挙げて合図をしなくても基本的に止まってくれましたが、合図をしないと止まらぬと言われてこともあり、気づいた時はできるだけ合図をすることが必要だと思いました。

日本から持って行って役に立ったもの、または喜ばれたもの

綿棒。ウェットティッシュ。けん玉。飴ちゃん。

紐付きのアイフォンケース

トラベル用のシャンプーとコンディショナー、スキンケア用品は日本から持って行って良かったです。現地のもは何か良いのかわからないですし、合わない場合や使い切らない場合もあるので持っていった方が良いです。喜ばれたものは、日本のお菓子です。

シュガーバターの木はホストマザーがとてもきにいていました。京都で買った富士山(日本を感じられるもの)のポストカードはとても気に入って来ていました。乾燥がひどかったのでリップなどの保湿化粧品、日焼け止めは必須でした。

ジップロック、金平糖

たけのこの里

おにぎりせんべい、西陣織のバッチ

ユニバーサルスタジオジャパンのボールペンとキーホルダーはかなり好評だったと思います。

ファブリーズ。日本酒は喜ばれる

化粧水。日本のお菓子はみんなに配れるし余っても自分で食べれるので良かった。インスタントのお味噌汁。

お土産として持参した、日本の紅葉を表現した色鮮やかな切り絵はとても喜ばれました。また、生理用品、どうなってもいい洋服・靴、ワンピース、おしやれ用の靴・バッグ、日焼け止め、折りたたみ傘、ルームシューズ、持参したタオル、電子辞書などはとても役に立ちました。

日本から持っていく必要のなかったもの	日本から持参すればよかったと思ったもの
日本食、あまり多くなくていいです。私は消費で大変でした。暖かい食べ物少ないのでスープと、お菓子少しあれば充分です。日本食屋さんあります。	ティッシュ
季節が日本と逆なので半袖を多めにもっていったが朝晩は冷え込み日本ほど暑くならなかったのもそれほど半袖が必要ではなかった。	軽いジャケットや羽織り
バスタオルとハンガー、は持っていきましたがホームステイ先で準備をしてくれていたので持っていかなくても良かったと思いました。延長コードも家で用意されていたため、使うことがなかったですし、日本から持っていても変換プラグが必要なので個人的にはいらなかったと思います。その代わりに、USB や Type-C、いろんな種類のコンセントもさせる変換器を一つ持っていったらほぼ全てのものに使えたのでそっちをお勧めします。	シャンプーは途中で足りなくなって買うことになってしまったため、もう少し多めに持っていけば良かったと思いました。大きいサイズだと持って行く時に重さや液体の量などで大変なのでトラベル用をいくつか持って行くのが良かったと思います。
洗濯用洗剤	予備のバジヤマ、ヒートテック、カイロ
必要以上の服、ノートパソコン	捨てて帰ることのできる服
パソコン、ノート、電子辞書	ヒートテック
ハンガー	靴下(多め)、化粧水(多め)、スリッパ、日本っぽいレターセット、厚手の上着
バスタオルは大体の家で用意してくれていたみたいなのでいらなかったです。	向こうは日本食が日本の2倍なら3倍ほど値段するのでカップ麺などの日本食を持っていけばよかったと思いました。
ハンガー、コンタクト液(大きいサイズ)日用品は全て旅行用サイズで良い。	ファブリーズ ホームステイ先では洗濯のタイミングを自分では決められないので、あると便利。ニュージーランドにはファブリーズのような衣服消臭剤は売ってなかった。
歯磨き粉の予備、体用の日焼け止め、ヘアケア商品など(→現地で十分)	特になし

に揃えられる)	
---------	--

4. 留学費用について

お金をどのように準備しましたか。	日本円でいくぐらい準備しましたか。
海外での買い物する際に得する学生ライフカードを一枚作り、800ドルほど空港で換金しました。	月上限 30 万円のクレジットカードと現金 800ドルほど持っていきました。
クレジットカードとデビットカードと現金	クレジットカード上限 20 万円と 8 万円入ったデビットカードと現金約 8 万円
クレジットカード 1 枚、デビットカード 1 枚、ニュージーランドドル 200ドル程度。	クレジットカード毎月上限 20 万円、デビットカード 10 万円、現金約 20,000 円
手元にドルを5万円分持っておき、スーツケースに五万円分おいていた。そのほかに 3 万円ほど銀行から引き出しましたが、それ以外はクレジットで払っていました。	現金10円万のドル、カード上限 100 万ほど
クレジット。キャッシュはほぼ必要ない	キャッシュ7万円分、口座に20万円
クレジットカードと現金	現金10万、クレジットカード上限 10 万
空港で現金換金、日本でクレジットカード発行	クレジットカード限度 10 万、現金6万
ほとんどクレジットで払いました。	クレジットで大体 15 から 20 万ぐらい準備しました。
クレジットカードと現金	クレジット上限30万円、現金3万円、日本円現金2万円
クレジットカード2枚 プリペイドカード1枚 現金	クレジットカード 10 万 のものと 30 万のもの 現金 8 万
デビットカード 1 枚、クレジットカード(ファミリーカード)1 枚、現金	現金三万円ほど(それ以降は現地の ATM でおろしていました)

現地で支払った住居費と食費を教えてください。
月 500ドルほど使いました。
食費約 10 万円
住居費ほとんどなし。食費は 3-5 万
たまにするカフェ、外食のみ220ドル/2 万円ほど
なし
食費5万
住居費なし、食費 5 万
友達とランチや飲みに行ったぐらいでほとんどホストマザーが用意してくれていたのでも 3 万から 5 万程度です。
食費は毎回外食に3000円ほど
月2~3 万程度
カフェやレストランでの外食で 10 万円ほどかかりましたが、ホストファミリーとの食事はすべて払ってくれました

テキスト代と通学費はそれぞれいくぐらいかかりましたか。
通学費 450ドルほど使いました。
テキスト代 0 円 通学費約 2 万円
テキスト代無料。通学費(バス代)約 25,000 円
通学45ドルほど

通学費は3ヶ月で1万円ほど
通学費は一日日本円にして100円程度
テキスト代なし、通学費4万
テキスト代は無料で通学費は3ヶ月15000ぐらいだったと思います。
テキスト代なし。通学費は2万円ほど
徒歩通学のため無料。テキストは現地では支払っていません。
テキスト代はわかりません。通学費に関しては、メトロカード(バスの乗車カード)を一回の乗車につきNZ\$1.3で、平日4回以上で無料、祝日・休日も無料でした。

その他旅行や買い物など個人的費用は何にいくらぐらいかかりましたか。
食費以外で400ドルほど月に使っていました。
旅行約5万円、衣服約1万5千円、娯楽約12万
約15万
15万円ほど
5万程
旅行5万、買い物7万、外食5万
服やお土産などで5万から8万程度使いました。
3ヶ月で30万円使った。基本は食費と服
15万円程度
交通費などを含み、全体では約30万円使いましたが、特に洋服や外食での出費が大きいと思います。

5. 学習面について

語学力・コミュニケーション能力の自己分析
今まで言われてる事を一旦日本語にしてから英語で会話していましたが、英語は英語で聞き取って答えることが増えました。
最初は自分の話す英語に自信が持てなかったが時が経つにつれて間違いを恐れず自信をもって英語を話せるようになった。そのおかげで、違うクラスの他国からの留学生やホストファミリーの家族など新しく会う人にも積極的に声をかけられるようになった。
簡単な会話や挨拶はできるようになったと思います。しかし、リスニングがまだまだのことが多く、留学の最後のあたりにも何度も何度も聞き返さということが多くありました。単語力がそこまでは身に付かなかったため、発言をする時にもいつも同じ単語を使って話していたと思います。留学前に比べるとネイティブの人と話すことにも抵抗がなくなりましたが、まだまだ発展途上、成長の余地があるように感じています。
苦手としていた長文問題を克服することが出来ました。授業で日常的に長文を読む能力が必要とされ、練習できたことが結果として成績に反映されていました。
語学力は他に劣っているにも関わらず、自分が一番発言をしていたので語学力が伸びた。
両方とも向上した。特にコミュニケーション能力はかなり向上しました。
始めは話したくても英語が出てこず相槌ばかりしていたが、途中から言いたいことが脳内で英語に変換されるようになって、日本人と話していて英語になったりするほど成長した
3ヶ月の間で自分では語学力の成長の実感は感じられなかったが、最終の先生からの授業評価のコメントにリスニングがすごく伸びたと書かれていて、ホストファミリーからも英語が上手、意味がちゃんと伝わると言ってもらえた。コミュニケーション能力は、意識的に努力したので成長したと思います。ホストファミリーや先生にもフレンドリーもらえたので、コミュニケーションは取れていたと感じる。

自分の場合は留学前に文法の基礎や便利なフレーズを学習していた状態で留学に挑んだのでそれを生かすことができた。準備がないと留学先で文法や新しい単語を学ぶ時間にとられるのであらかじめ文法や表現を完璧にすることで少ない三か月間でも伸びを実感することができた。

私の中で変化したことは、スピーキングに対するの恐怖心がなくなったことです。初めから大きな恐怖心があったわけではないのですが、スピーキング練習を通していろいろな国のアクセントを持つ英語に触れることができたので日本人アクセントが以前より気にならなくなりました。また、単語力が圧倒的に足りないことがわかりました。具体的にはもっと会話の中ですぐに使える単語を増やす必要があることがわかりました。

留学前の目標とその達成度

4技能全てが留学に行ったおかげでとても上がったと思いますが、今まで喋るのが怖かったことが伝わるということを知れて、話すのが怖くなくなりました。

留学の目標として語学力の向上以外にコミュニケーション能力の向上を掲げていた。フレンドリーな国民性を持つニュージーランド人との生活を送る中で、初対面の人とのコミュニケーションの取り方や会話の広げ方などたくさん学ぶことができ、目標を達成できたと感じる。

留学前は帰国後に日常会話がすらすらできて、海外の友達をたくさん作ることを目標でした。しかし、日本人の学生といることが多かったため、リスニングは以前よりも向上しましたがスピーキングはそこまで上達しなかったように感じます。

海外の方と気軽に会話ができ、純粋に人とのかわわりを楽しむことを目標にしていました。たくさんの方と知り合うことが出来、お話しする機会が沢山あり、とても楽しく達成することが出来ました。

目標は1人で問題なく現地の人とコミュニケーションをとることで達成できた。

留学前の目標は洋画の内容を字幕なしで理解出来る様になる事で達成度は80%です。

物おじせず話せるようになった。自信をもってスピーキングできるようになった。周りの目を気にせずはっきり言うようになった。文法の正しい使い分けができるようになった。

自分からコミュニケーションを取ることを目標としていたので現地の人と話つきかけを与えてくれたことが自分の目標に少し近づけたと思うので達成度は8割ぐらいできたかなと思います。

現地の友達10人作ることを目標にしていた見事達成した。その友達と週末出かけたり帰国日には空港までお見送りに来てくれた

「いろんな人と話しているんなところに行く」 留學生活中1日も無駄にせず、行動し、チャレンジできた自信があるので達成度を感じています

留学前の目標:自分が思っていることをはっきり伝えることができる。留学後の達成度:自分の意見を述べるようになり、会話を自分がリードしている時もあった

私は「できるだけ多くの方とコミュニケーションをとる。今の語学力でどれくらい意思疎通ができるのかを知り、具体的な自分の弱点を見つける。NZでの滞在を最大限に楽しむ!!」という三つの目標を持っていました。特に二つ目の目標に関して、毎週彼らの友人たちとの食事会に参加したり、話す機会を逃すことなく活用できました。また、ホストマザーと一緒にNZで人気のズンバに通ったり、日本では挑戦しなかったことにたくさん挑戦しNZを最大限に楽しむことができました。

留学を通しての成長ポイント

自分で伝えたいことを自分の持っている英語力の中で文章を組み立てて話せるようになりました。

柔軟に物事を考える力がついた。留学し違う国の文化に触れる中で自分の中で凝り固まっていた当たり前の考えが壊れ、より柔軟な考えができるようになった。

留学前よりは少し語学力が身についたと感じています。また、文化や習慣の異なる場所で生活することにより、多少のことはなんでも受け入れられるようになり、対応力、柔軟性なども身についたと思います。

自分に自信をもって行動できるようになったこと。自身しか経験していないであろう経験を留学で経験することが出来たため、行動力が身についた。そして伝えようとする姿勢が大切だと学び、日本語においても会話を大切にできるようになりました。

コミュニケーション能力

一番成長したところは緊張せず大勢がいる前で話すことが出来るようになったところです。
物おじしない心、挑戦すること、自分の意見を言えること、多文化理解
コミュニケーション能力が上がった。友達の友達をすぐに仲良く慣れたりバス停で初対面の現地の人と喋ったりして会話力が上がった
語学力が現地の人より不足しているのは当たり前のことなのでそこに臆さず話したことで成長できた。日本人と固まりすぎないように週1でひとりで外出した。(ニュージーランドの治安は良かった)行動力がついた。
個人的な意見として英語力が伸びたというよりも、英語を話すことに慣れた気がしている。英語を話すのが最初は恥ずかしいとか気持ちの問題で自分の成長を邪魔することがあったが、それを克服し英語を話すのが当たり前になってくると以前よりもすらすら出てくるようになった。
困っている人に対して声をかけることが怖くなったことが成長したところだと思います。言葉の壁を恐れることなく実際に行動に移せるようになりました。また、母には「人の意見を聞く力がついた」といわれるようになりました。あまり実感はありませんが、自分の納得がいくまで相手の意見を聞き、解決する力がついたように見えるそうです。

留学前/留学中/留学後の語学学習に対するモチベーションの変化
留学前、勉強しなくてはと思いながらあまりできずに行っていました。留学中は英語力が周りより低かったので、大学生活の中で一番勉強したと思います。帰ってきてから勉強は思っているよりできていません。
留学前は語学学習の意欲はありつつも自分にとって何の学習が必要なのか曖昧だったが、留学中授業を通して自分の苦手な分野が明確になり、帰国した今はより語学学習に対して意欲的になった。
留学前はやる気満々でいきましたが、クラスが日本人だけで一緒にいる友達も日本人だけだったため留学中は留学前に考えていたよりも英語を使いませんでした。モチベーションもそこまで高くなかったように感じます。その後、途中で学外の英語を勉強するコミュニティに通い始めて少し復活しました。帰国してからはそこまで英語が上達しなかったことに対して後悔をして、そこからモチベーションが高くなっています。
留学前: いってみれば何とかなるという考えで必死に勉強してはいませんでした。/留学中: 日常会話の聞き取りの難しさや、改めて一から学ぶ文法に苦戦し悔しく思い日々の勉強量を増やし始めました。特に授業で扱う文法が苦手分野が多かったため、克服に向け予習復習を朝晩に行っていました。/留学後: 留学後日に受けた TOEIC で実力を実感し、まだまだだと感じました。
さらに海外へ行く意欲が増えた
留学前正直実感が湧かなかったのがモチベーションはあまりなかったのですが、現地の大学の先生出会ってから英語は頭で考えるのではなく話すことが大事ということに気づき今ではこのスピーキング能力を下げることなく更に向上させたいと思いました。
留学前: ある程度話せると思っていた。留学中: 自分の英語力のなさに危機感を持ち、毎日放課後や家で復習、勉強するようになった。留学後: 目標を設定して、楽しく勉強できている。
留学前はあまり英語を話すことができないので不安しかなかったのですが留学中は一緒に行っている日本人の人たちがどんどん会話の上達しているのを見て自分も負けてられないと不安より焦りの方が大きかったと思います。留学後は今回身につけたこととプラスして知識を見つけられるように勉強に集中しようと思いました。
留学前は向上心より不安が大きかったが、途中からこの貴重な時間で自分のスキルを上げたいという気持ちに変わった
留学前 友達から「留学頑張るね」と言われるたびに「楽しみしかない！」と思っていた。留学中 家族内の会話や現地の友達同士の会話についていくのが難しかった。それがとても悔しかった。大学の先生や店員さんとの会話は1対1なので比較的聞き取れるし、コミュニケーションもとりやすい 留学後 これからも外国人と話せる機会を作っていきたいと思っています
言語交換イベントに参加することによっていろいろなネイティブの人と出会いそこで連絡先を交換して予定を立てたり、遊びに行ったりすることでモチベーションを維持することができた。
留学中には何度も悔しい気持ちになりましたが、その話をするホストファミリーが必ず「あなたは頑張っている。」と言ってくれました。課題に関する疑問がある時にもしっかりと時間を作って一緒に解決してくれて、心強かったです。Ara の先生方の授業はとても面白くて、英語を学ぶ面白さを知ることができました。どうしてもモチベーションが上がらないときには、Youtuber の kemio さんの動画を見て、「アメリカで頑張る彼のようにになりたい!」と

気合を入れなおしていました。

留学中 100%力を振り絞った瞬間

ホストファミリーの英語のなまりがきつくコミュニケーションがうまくいかず、さらにその時期食生活にも問題を感じていてその二つのストレスがピークに達した時に爆発してしまい学校で号泣、ホームステイのサポーターに連絡することになった。その後ホストファミリーにもその連絡がいき家で会議になった時自分の伝えたいことを遠慮せず、英語を使って自分の言葉で説明した。メンタル的にも英語力的にも自分の力を100%振り絞った瞬間だったと感じる。

ホームステイ先にホストファミリーの友達に来て一緒にディナーをした時にはネイティブ同士の会話に入ることができず、半分くらいしか聞き取れなくてその時に一単語一単語じっくり聞き取れるように頑張りました。質問をされたときの返答も出来るだけ自分の意見が正確に伝わるように自分の考え得る単語を全て使って話していました。

期末テスト 三か月間の努力がたった一枚のかみで決まってしまうため、復習をしっかりと行い挑みました。

1つのテーブルで自分以外外国人だけで会話をした時

バスに乗る前にインド人の方に話しかけられて会話が続いたことです。なぜなら、訛りもあった上にバスの中で聞こえずらい中で話を途切れることなく話すことが出来たからです。

学期末テスト。街の人に声をかけること。

お金を苦しんでいる人に声をかけられた時周りの大人は見て見ぬふりをしていたので自分1人の力でこの人に何が出来るか考え解決することができた時は100%の力を出し切れたんじゃないかなと思います

到着して3日後に言語交流会に行った。喋れないなりに会話をつなぐことに必死になった。

「ホストシスターとのコミュニケーション」ホストペアレンツの判断で留学生受け入れをしているので、子供たちが留学生に興味があるかといえばそうではないのが現実でした。しかし、大学ではクラスに日本人しかいないため、現地の人との交流をしたかったので積極的にコミュニケーションを取りました。

私の言葉足らずのせいでホストマザーに誤解をさせてしまい、その誤解を自力で解いたときです。

留学先大学の良かった点

ランゲージエクステンションなどで色々な現地の人とコミュニケーションが取れて教会などにも行けたのがよかった。あとシャワーがあったので家でご飯しかお風呂に入らなかったがとても助かった。

教員がフレンドリーな人が多く、いい意味で友達のような感覚で質問等がしやすかった。

他の国から来た英語を学んでいる学生と同じ階に教室があったこと、commonsなどの部屋があったこと、ゴミ箱がいっぱいあったところが良かった点です。

校舎内も自由に移動でき、つかうことが出来たことが良かったと思います。先生方や受付の方、インフォメーションセンターの方など、とても優しいかたが沢山いて、分からないことも気軽に相談できとても助かりました。午後のクラブ活動や、町のイベントなどもポスターでカバに張り出されていて、とても把握しやすかったです。

先生がよかった

サポートがとにかく手厚かった。

先生の授業がわかりやすかった。日本語クラブがあった。

よかった点は先生ほとんどがフレンドリーですれ違った際絶対に話しかけてきてくれるのでとてもコミュニケーションが取りやすかったところでした。

授業以外でも親身になって相談に乗ってもらったり、授業では英語しかしゃべってはいけないというルールを徹底していたのでクラスに日本人だらけでも英語を話す機会がたくさんあった